

平安京左京二条二坊十五町（高陽院）跡発掘調査地元向説明会資料

株式会社 文化財サービス

2018年8月11日

所在地：京都市中京区油小路丸太町下ル大文字町

調査期間：2018年7月2日～10月31日（予定）

調査面積：約600㎡（3区に分けて調査となり、現在はその1区目を調査中）

はじめに

今回の調査は、平安京左京二条二坊十五町にあたり、藤原頼道が造営した高陽院の敷地（平安京二条二坊九・十・十五・十六町）に該当する。また、周辺の発掘調査から、その高陽院の池跡が出土することが明確であり、池底が地表面より約3mとなることから、調査から出る残土の置き場を考慮し、3分割での調査とした。現在は第1区を調査中で、近世の遺構面、中世の遺構面を既に調査を終え、高陽院の池を埋め戻した土を掘り下げ中です。

見つかった遺構

- ・江戸時代：禁門の変に伴う火災を処理した大きな穴が見つっています。焼けた瓦や焼土が詰まったものです。また、同じ時期の井戸跡も見つっています。
- ・中世末（近世初頭）：調査区の西端で路面が見つかりました。砂礫と粘土で突き固めたしっかりとした路面でした。油小路の路面だと思われ、東側部分幅約2m分を確認しました。現油小路よりも東に約4mのところが東端となるようです。
- ・中世：油小路の両側溝と思われる溝が見つかりました。15世紀の後半には埋まったようです。路面幅は6mで、平安時代の小路の路面幅より少し狭いものですが、平安時代の条坊制の油小路推定位置にほぼ合致しています。油小路が時代を経るごとに東に移っていく状況が確認できました。その他では、井戸跡が1基、建物の柱穴なども見つかりましたが、南北に狭い調査のためどのくらいの規模の建物になるのかは不明です。続けて南側も調査しますので、その成果により建物の規模もわかってくると思われます。その柱穴を埋めた土の中から13世紀前半に推定される瓦が多く出土しました。高陽院の池を埋めた土の上面に掘られた穴ですので、高陽院の池はその時代の少し前には埋まっていることがわかりました。
- ・平安時代末期：高陽院の最終期に埋めたと思われる池が見つかりました。調査区全域におよぶもので、その広大さがわかります。

まとめ

今回の調査では、高陽院の廃絶後、中世を通して人は住んでいる状況は確認できましたが、それほど活発な経済活動があったようにはうかがえない状況を確認しました。

それは井戸などが重複して見つからないようなことから知ることができます。そして、聚楽第や二条城造営などの時期（桃山時代から江戸時代初期）には油小路の移動、強固な路面化など再開発がなされた様子が見られます。

高陽院年表

寛仁	3	1019	藤原道長出家 頼通関白となる この頃、高陽院の造営始める？
治安	1	1021	藤原頼通 賀陽親王旧邸二町を含む四町に高陽院を造営
万寿	1	1024	競馬 後一条・東宮（敦良）太皇太后（彰子）ら列席
	3	1026	高陽院水閣歌合
長暦	3	1039	高陽院焼失
	4	1040	再建
長久	4	1043	後朱雀天皇遷幸（里内裏）
天喜	1	1053	後冷泉天皇 冷泉院より遷幸 平等院阿弥陀堂（鳳凰堂）造営
	2	1054	高陽院内裏焼失
康平	2	1059	高陽院上棟
	3	1060	後冷泉天皇 三条第より新造の高陽院へ遷幸
	5	1062	後冷泉天皇 競馬・騎射を観覧
延久	1	1069	後三条天皇 大宮院より遷幸
承保	1	1074	藤原頼通没
	2	1075	競馬 白河天皇行幸
承暦	1	1077	白河天皇 六条宮より高陽院に移る
	2	1078	白河天皇 内裏より高陽院に遷幸
	4	1080	高陽院焼失 白河内裏へ移る
応徳	3	1086	堀河即位 白河上皇の院政始まる 師実摂政
寛治	3	1089	藤原師実 高陽院を再建
承德	1	1097	堀河天皇 新造高陽院清涼殿に遷幸
康和	2	1100	堀河天皇 高陽院に遷幸
天永	2	1111	鳥羽天皇 土御門より高陽院へ遷幸
	3	1112	皇居高陽院が焼失
大治	4	1129	白河法皇没 鳥羽院政始まる
元久	2	1205	後鳥羽天皇 高陽院殿へ御移徙
承元	1	1207	後鳥羽天皇 御所高陽院
	4	1210	高陽院の馬場殿が焼失
建暦	2	1212	後鳥羽天皇 御所高陽院
建保	1	1213	順徳天皇 高陽院へ行幸
	2	1214	二条猪熊が焼亡 余炎が高陽院の東門や中門御車宿等におよぶ
承久	2	1220	皇太子が上皇御所高陽院で袴着
	3	1221	承久の乱 土御門上皇配流
貞応	1	1222	院御所が炎上 高陽院殿に御幸
	2	1223	高陽院に放火 数字の殿舎が一時に焼失